

慶應義塾大学指定寄付奨学金授与証交付式（2017. 9. 15）

深緑の大銀杏が聳え立つ三田での奨学金交付式に出席いたしました。
今年度の 221 名の奨学生、各三田会や各年度三田会等の代表者、そして長谷山塾長をはじめとする大学の方々のご参列の中、式典は厳かに行われました。

長谷山塾長のご挨拶は

- * 学部の恩師でもある田中實先生が「人生は運と縁」と言われたこと
田中實賞ができたこと
- * 下宿の先輩からいつも世話になっていて気にしたが、紳士的な先輩たちは「先輩は後輩にしてあげる、それでいいのだ」といわれたこと
- * 「世の中にて最も大切なことは人と人とのつきあい、それ、すなわち学問である」といわれた福澤先生のこと

このようなお話は、深く心に沁みました。

次に学生総合センター長の千田先生は

- * 寄付する立場として考えてみれば、慶應をよりよい大学にすることを目指してほしい。職業人のためや一般教養だけを身につけるだけでなく、研究大学として、世界の最先端を目指してほしい
- というようなことをお話されて、学生たちを励まされました。

謝辞は、理工学部生命情報学科 3 年の女子学生が、生物を研究しているが、宇宙生物学なども視野にいれ、奨学金を大事にして頑張りたいと抱負を述べられました。

続いて、懇談会が学食で行われました。駒村理事の「魂はずうっと受け継がれていく」という心のこもったお話の後、乾杯の音頭にみんなで声高らかに杯をあげました。

奈良三田会の奨学生は理工学部 1 年の中川陽介君で、聡明な明るい学生さんでした。東大寺学園出身で、奈良市に実家があり、またいつの日か奈良三田会にも参加させていただきたいとのことでした。そして、奈良三田会の方々どうぞよろしくお伝えくださいと言っていました。

学生と塾員と一緒に初対面とは思えないほど和気藹々集う、この場を福澤先生はどこからか嬉しそうに見守ってくださっているような気がしました。

（S. 47 文学部卒 平越真澄）